

避難困難者をどうするか

家族、地域、行政の連携で



みやち 葉子 議員

**問** 全国一の津波高が発表された黒潮町だが、町長は「避難放棄者ゼロ」から「犠牲者ゼロ」へと目標を引き上げた。国も予算を大幅に投入し、避難道、避難場所等の整備、避難タワーの設置に向けて着々と手が打たれてきている。しかし、避難困難者をどうするのか最大の課題が残っている。体の不自由な方、高齢で歩いたり走ったりする事が難しい方、そんな家族をかかえている方々などは、簡単に逃げる事は難しい。町民の方か

ら「足が悪いので、やっと思いで逃げても、避難道、避難タワーで人の手を借りなければ上にあがれない。人に迷惑を掛けるのが心苦しく、それが嫌だからいつそ逃げない」「女房は足が悪く逃げられない。一人残してはいけなから、二人で逃げないでおるう、と話し合った」と身に詰まされる話も聞かされた。避難困難者の対策はどう考えているのか。

**答** 大西町長

避難困難者の対策が一番の課題だが、災害時に行政だけで全ての住民を助けることは困難だ。家族、地域、行政の連携で、共助の仕組みをどうやって作るか、今後死に物狂いで検討したい。

**問** 津波の前に地震対策も必要だ。家具転倒防止器具や窓ガラスの飛散防止フィルムの補助もあると聞くが、手続きは簡単か。一人暮らしの高齢者から、取り付けが難しいが安く出来る方法はないか、と問われたがどうか。

**答** 松本 情報防災課長

家具の転倒防止や窓ガラスの飛散防止フィルムなどは基本的に全て補助の対象になる。手続きも簡単なので役場に相談して欲しい。また、地域等でまとめて購入するなどの支援ができないか、県に相談している。

同和問題

泊り合い事業は中止を

教員の5時以降参加は違反

**問** 同和对策特別法が完全失効して10年。いつまでも住民を線引きした今までもおりの取り組みは限界で、行政も整理をする段階に来ているので

はないか。形骸化した「泊り合い事業」は中止をすべきだと思いがどうか。

**答** 松本 住民課長

泊り合い事業は、同和問題を柱としながら、他の人権問題も含めた人権研修となるよう創意工夫をして、今後も実施する。

**問** 「泊り合い事業」で、県教委から改善を求める指導があったのではないか。

**答** 坂本 教育長

県から指摘があった。5時以降の教員の参加が日程に組み込まれていけば時間外勤務で条例違反になる。5時以降の自由参加の表記について住民課とも協議をし、是正すべきは正しい。



満開の桜 (六地蔵)